

**【旧約聖書日課】歴代誌下 7章11～16節**

11ソロモンは主の神殿と王宮を完成し、この神殿と王宮について、行おうと考えていたすべての事を成し遂げた。

12その夜、主はソロモンに現れ、こう仰せになった。「わたしはあなたの祈りを聞き届け、この所を選び、いけにえのささげられるわたしの神殿とした。13わたしが天を閉じ、雨が降らなくなる時、あるいはわたしがいなごに大地を食い荒らすよう命じるとき、あるいはわたしの民に疫病を送り込むとき、14もしわたしの名をもって呼ばれているわたしの民が、ひざまずいて祈り、わたしの顔を求め、悪の道を捨てて立ち帰るなら、わたしは天から耳を傾け、罪を赦し、彼らの大地をいやす。15今後この所でささげられる祈りに、わたしの目を向け、耳を傾ける。16今後、わたしはこの神殿を選んで聖別し、そこにわたしの名をいつまでもとどめる。わたしは絶えずこれに目を向け、心を寄せる。

**【使徒書日課】エフェソの信徒への手紙 3章14～21節**

14こういうわけで、わたしは御父の前にひざまずいて祈ります。15御父から、天と地にあるすべての家族がその名を与えられています。16どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めて、17信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住ませ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように。18また、あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、19人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。20わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方に、21教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

## 【福音書日課】ヨハネによる福音書 10章22～30節

22そのころ、エルサレムで神殿奉献記念祭が行われた。冬であった。23イエスは、神殿の境内でソロモンの回廊を歩いておられた。24すると、ユダヤ人たちがイエスを取り囲んで言った。「いつまで、わたしたちに気をもませるのか。もしメシアなら、はっきりそう言いなさい。」25イエスは答えられた。「わたしは言ったが、あなたたちは信じない。わたしが父の名によって行う業が、わたしについて証しをしている。26しかし、あなたたちは信じない。わたしの羊ではないからである。27わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。28わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない。29わたしの父がわたしにくださったものは、すべてのものより偉大であり、だれも父の手から奪うことはできない。30わたしと父は一つである。」

### 声を聞き分ける【こども説教のために】

主イエスの時代よりも千年も昔、羊飼いの子であったダビデは、ユダとイスラエルの人々の王とされたとき、エルサレムの丘に「神の箱」を運び上げました。そこに、「神の箱」を納める「神殿」を建てたいと願ったのです。けれども、その願いは実現できず、「神殿」を建てたのは、息子のソロモンでした。その「神殿」で、ソロモンは祈りをささげました。神が、その祈りを聞き、また目を向けてくださるとお約束くださったからです。

主イエスの時代、その「神殿」は、ソロモンが建てたときよりも数倍大きく、また立派になっていました。神に犠牲をささげ、祈ろうとして「神殿」に参拝する者の数は、数えきれないほどでした。けれども、主イエスの目には、その犠牲に神が目を向けてくださっているようには見えませんでした。祈りの声に神が耳を傾けてくださっているようには思えませんでした。そこで犠牲の動物を売り買いし、神殿にささげる献金のために両替する人たちを見て、主イエスは憤られ、彼らを神殿の境内から追い出されたのです（ヨハネ 2:13 以下）。主イエスは、神殿を清めて、もう一度、神が祈る者に目を向け、その声に耳を傾けてくださるところになるように願われたのです。

主イエスは、祈りに耳を傾けてくださる神は、その御声をお聞かせくださるとおっしゃいます。神がわたしたちの祈りをお聞きくださるとき、わたしたちは、神の御声を聞くようになるのです。祈る者に目を向けてくださり、耳を傾けてくださるお方が、静かにお語りくださり、御声をお聞かせくださるのです。主イエスは、その御声を聞き分けるようにとおっしゃるのです。

## ここを祈りの家に！

6月に始まった会堂大規模修繕工事も、ようやく終わりが見えてきました。今週中には、足場が解体される見込みです。その後、残りの工事が順調に進めば、月末までには工事を終えることになるでしょう。建物の中はほとんど変化がありませんが、外見は化粧直しされた姿を見せてくれるはずです。殊に、屋根上の十字架塔は、切れていた照明を交換しましたから、夜間もライトアップされてその姿を周囲に示してくれることを期待しています。

このようなことは、わたしたちの礼拝や信仰に関係のないこと、とお考えの方もあるかもしれません。確かに、『聖書』ひとつあれば、それに加えてお気に入りの『讚美歌』が一冊でもあれば、わたしたちは、どこでも礼拝、祈り、信仰生活を続けられるのです。中には、洗礼を受けた信者であっても、どこの教会も自分の信仰スタイルに合わないからと言って、家庭で一人あるいは家族だけの礼拝を守っている、という人もいます。それは、もしかすると純粋な信仰の姿勢なのかもしれません。

それでも、わたしたちは、会堂建物を大切にすることを大切にしてきました。教会堂を、わたしたちの「祈りの家」としてきたのです。この教会堂が「祈りの家」として知られるようになることを願ってきたのです。建物の中に入らずとも、遠くから近くからこの教会堂を見て、十字架を見上げて、ここに「祈りの家」があると知ってくださる方がいるならば、この会堂建物の外見にも気を配りたいのです。もちろん、ここで本当に祈りがささげられていてこそ、ここが「祈りの家」であると知っていただくことになるでしょう。

日曜日の朝、一時間ほどの礼拝のとき、ここは、誰にも分かる形で「祈りの家」となります。わたしたちは、何よりもこの礼拝の集まりに呼び集められて、「祈りの家」の祈りに加えられます。順序に従って行われる祈りに声を合わせ、また耳を傾けながら、皆さんは、それぞれの祈りをも、このときにささげられていることでしょう。皆さんの中には、毎日朝晩の祈りの習慣を続けている方もあるでしょうし、他方で、普段の生活では一人静まって祈る時間を取ることができない方もあるでしょう。日曜日の礼拝の中でしか祈ることはない、という方もあるかもしれませんが、それでも「祈りの家」で祈る者とされていらっしゃるのです。貴いことです。

神は、このような祈りの営みに、その目を向け、耳を傾けるとおっしゃられたのです。ソロモンに告げられた約束は、わたしたちへの約束でもあるでしょう。今、ここに、神は天から御目を向けてくださり、御耳を傾けてくださっているのです。そのようなお方の御前で、わたしたちは、祈りの営みを重ねているのです。けれども、わたしたちの「祈りの家」の祈りは、わたしたちの祈りの言葉が沈黙したときに、本当の祈りになるのかもしれません。

## 神の御声を聞く祈り

ソロモンは、神殿と王宮の建築事業を完成させ、献堂の儀式を自ら執り行いました。王自らささげた祈りの言葉が、『聖書』に伝えられています。盛大な儀式は、人々をして神の臨在を思わせたのではないのでしょうか。ところが、主なる神がソロモンに現れられたのは、その神殿での儀式のときではなかった、その夜、一人になったときでした。祈りの言葉が尽くされ、もはや神の御前に語ることを終えたとき、ソロモンは初めて、神の御声の響きを聞き始めた、というのです。

子どもの頃に通っていた教会で、繰り返し言われたことを思い出します。「祈りは、神さまとお話しすること、対話すること」と。大人や先輩たちの淀みない祈りの言葉に圧倒されるばかりで、自分の言葉で祈ることが苦手だったのです。中学生になれば、洗礼を受けていなくても、自分の言葉で祈るようにと促されました。人の祈る言葉を真似て、組み合わせ、何とかしのぐような祈りをするのが、やっとでした。同年輩の仲間たちが流暢に祈るのが不思議でした。そのようなわたしにとって、「祈りは、神さまとの対話」という教えは、一筋の光明だったのです。対話ならば、流暢に言葉をつながなくても良いのですから。自分の言葉を語ったら、次の言葉をつなぐ前に、相手の言葉を待ったらよいのですから。

ソロモンが建てた神殿は、モーセの時代から受け継いできたという「神の箱」を安置することで完成しました。その「箱」の中には、神から授かった「掟の板」が収められていたといえます。それは、「神の言葉」です。「神の言葉」を聞くところとして、神殿は建てられたのです。「神の言葉」を聞くために、神殿で祈りました。祈ることによって、自分たちの言葉を語りました。もちろん、神に向かってです。御目を向け、御耳を傾けてくださるという神に向かって、祈りをもって語りました。それは、何よりも、「神の言葉」を聞くためでした。神のお語りくださる言葉を聞くことができるようになるためでした。まずわたしたちの訴える言葉をお聞きくださる神が、わたしたちにお語りくださる御言葉を、聞き取ることができるようになるためでした。

主イエスは、何よりも、神の言葉をわたしたちが本当に聞き取ることができるようになるための道筋をお示しくださったのでしょう。その道を示されたと信じた使徒パウロは、御父の前にひざまずいて祈るのです。心の内にキリストがお住まいくださると信じて、祈るのです。キリストが、わたしたち祈ることの遅い者の内で、祈る者となってくださるのです。わたしたちの中で、御目を向け、御耳を傾けてくださる神の御前に祈る者となってくださり、御父の御言葉を聞く者となってくださり、その御声の響きをわたしたちにも聞かせてくださる。そう信じて、わたしたちも祈りの営みに加わるのです。